

がんばろう 南三陸町 復興第 17 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援：
志津川広報センター



震災を乗り越えた 89 名の旅立ち

震災から 2 年目を迎え今年も 3 月 10 日志津川中学校卒業式が開催された。証書授与は 3 年 1 組 1 番阿部君の「第 11508 号」から、3 年 3 組 30 番の渡辺君の「第 11595 号」まで、一人一人が多くの来賓、先生、保護者、在校生が見つめる中での、志中生としての旅立ちの晴れの姿として、輝かしい勇姿を見せてくれた。

菅原校長の式辞では、「志中生徒会の伝統を引きついできた行動に敬意を表したい」と話し、「絆、感謝、思いやりの必要性を学んだ」と続けた。一人の生徒の逝去に涙をつまらせ「夢を叶えられなかった小坂由香子さんの為にも頑張っていたきたい」と卒業生に伝えた。その後に菅原校長先生が英語の歌を口ずさむ「ウィシャルオーバーカム」で、意味は「人間としての温かい権利を勝とう」とあり、生きていく上で心に宿してほしい重い言葉と感じた。

祝辞で佐藤町長は、「震災により感謝、人を思いやることを気づかされた」「夢に向かって活躍を祈る」と励ましの言葉を送り、日々成長していると保護者に語りかけた。後藤議会議長は、「鮭が帰ってくるように、皆さんも南三陸町に大きくなって帰って来てほしい」と語った。遠藤父母教師会長は「誇りを持って生きてほしい」と話した。



在校生の送辞では渡邊万希君が「あるときは厳しく、ときには献身的に指導をしてくれた」「尊敬とあこがれの存在だった」と送る言葉を述べ、答辞では西城皇祐君が「3 年前に志津川中学校は 2 つの学校からの入学式だった」と統合の事を思い出し、3・11 の大震を「長かった一夜を一生忘れる事はないだろう」と振り返った。そんな 3 年間の中で「志中でのいろいろな事がかけがえない宝物」「いつもそばにいた友だちも宝物」と中学校生活で学び得たものを答えてくれた。

最後の全校合唱では、「旅立ちの日に」を卒業する仲間と在校生とが最後の志中生徒会が一体となった歌声に、指揮者の涙に会場も涙に包まれていた。この卒業式に南三陸町の明るい未来の光が見えた気持ちとなった。

校長室での待ち時間に、3 月 20 日に行われる「東京都中学校駅伝」に南三陸町の合同チームが招待を受けたとの報告がなされた。

感謝の気持と夢への挑戦

初春となったまだ肌寒い 3 月 18 日、志小体育館で志津川小学校の 44 名の 6 年生の卒業式が開催された。



志津川小卒業式

真新しい洋服や羽織袴に身をくるんだ、凛々しい姿の卒業生の入場に保護者からのフラッシュが起こり、少しの緊張感と、胸いっぱい喜びに満ち溢れる卒業生。受けとった卒業証書を保護者に一人一人見せると、小さな各々への拍手とフラッシュが卒業を祝福する。被災地にありながら、ここに「小さな喜び」があり家庭・家族には心和む志小の卒業式となった。

式辞で加藤校長は、清水小・荒砥小の子供たちとの学年となった 6 年間の思い出があり、この震災で自ら学ぼうとする努力ができ、「志小の最高学年として素晴らしい生徒だった」と語る。加藤校長から卒業生へ 2 つのお願いがなされた。1 つは「感謝の気持ちを持つ、そして持ち続ける事」2 つ目は「夢を持ち失敗をおそれず挑戦する事」と言い、「志津川小は皆さんのふるさとです」と結んだ。

佐藤町長の祝辞では、「校庭の仮設の町民のみなさんは、皆さんから元気をもらった」とそして「困った時にはみなと助け合う事を学んだ」と、

被災者と共に頑張ったことを話した。後藤議長は「4 月からの中学校生活は期待と不安の事でしょう。大人への通過点で夢と希望を持ち、新たな挑戦としてほしい」とエールを送った。

佐藤父母教師会長は、『志小への最後の入学生として、三校親子ふれあい祭りに 800 人が参加し、美味しい「とん汁」を思い出します』と 3 校が一つになった当時を振り返った。そして卒業生には 22 世紀まで南三陸町を見届けてほしいと語りかけた。

門出のことばでは、卒業生が段上に立ち 6 年間の思い出を涙をこらえながら話した。4 年生の終わりの 3 月「東日本大震災」の、眠れぬ夜を過ごした事、「家族が迎えに来て嬉しかったが、迎えにこない友だちが心配だった」と当時の事を振り返って、また会場から涙声が聴こえてきた。在校生が「卒業生のみなさんに取れないよう頑張ります」との送る言葉に、「さようなら志津川小学校」と卒業生が最後の言葉を述べた。

保護者代表の挨拶では、和泉さんが「我が子の姿に私たち親が励まされた」「先生方のご指導があったから」と、この震災の中での 2 年近くに及ぶ学校の対応と、全国からの支援と、町民皆様の見守りがあったからここまで来られたと語った。

希望の空は晴れ渡り、その揺籃の輝き立って、志津川小学校の校歌の歌詞にピッタリの卒業式だった。



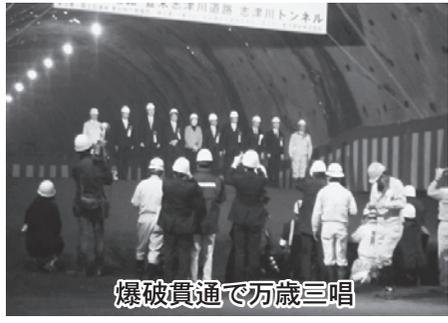
最少の卒業生となった新たな門出

平成 25 年 3 月 3 日

志津川トンネル貫通式

平成 23 年 8 月から始まった三陸縦貫自動車道(復興道路)登米志津川道路の志津川トンネルは、東の志津川側からは前田建設(671 社)、西の登米市米谷側からは東洋建設(761 社)の、両方からトンネルを掘り進め、中間地点での最後の爆破で総距離 1432 社の「志津川トンネル」が貫通となった。

村井知事、小野寺五典防衛大臣や、衆参の国會議員、国土交通省、両市町の関係者多数が貫通を祝った。工事関係者



爆破貫通で万歳三唱

のみこしも繰り出し、入谷地区からは「打ち囃子」が祝い場を盛り上げた。

最後の岩盤の爆破は、3・2・1 の合図により、爆音と閃光が走り「貫通式」を無事終え、関係者の代表が変わる変わる境界の爆破の場所に立ち、万歳三唱が繰り返された。



志津川トンネルは 4 年から 5 年かかると言われた工事ながら、1 年 4 カ月で貫通となった。復興の加速を図った成果を出す事が出来た。

村井知事は「復興の種をまく、リーディングプロジェクトで、復興を繋ぐ命の道です」と語った。布施登米市長は、「登米・南三陸の絆を結ぶ、共に力を合せていきたい」と述べた。

終わりにトンネルに清めの塩をまき、全員で貫通点の「通り初め」を行った。

本吉・気仙沼地域で一番目の「防災集団移転事業」



戸倉字藤浜地内

3 月 26 日(金) 南三陸町防災集団移転促進事業の戸倉字藤浜地区内の、造成着工式(敷地面積約 9,930m²)が開催された。旧藤浜小に向かう 398 号のパーキングで、本吉・気仙沼で初めての「防災集団移転」の地鎮祭・着工式が 100 名の関係者が参加し行われた。8 台のテレビカメラと

多くの記者、そして関係者や地域の人たちが再建のスタートの祝いに駆け付けた。

20 地区 28 団地の工事が 25 年ここから一揆に始まる。藤浜は 10 世帯 46 名の「防災集団移転」で、造成工事費は 165,375,000 円であり、25 年 12 月に造成完成予定となっている。津波被害の海岸線の復旧復興の集落の姿は、美しい完成予想図が示され、生まれ変わる美しいコミュニティの再建が加速する。

藤浜地区の防集を祝い、戸倉中学校の生徒による祝舞「長清水鳥囃子」が、着工式に披露された。春に向かう暖かい日差しが祝舞を包んだ。

大太鼓の音で始まり、笛・鐘・小太鼓の軽快な囃子が始まると、来賓者が身を乗り出して戸中生

の長清水鳥囃子を見つめ、出てきた獅子舞をカメラで追う。多くのメディアも子供たちの活動の姿を紹介し、県内・国内へと子供たちによる地域芸能が伝えられた。

獅子舞の頭には戸中の生徒会長の小山君が大役を勤めた。獅子の口からの垂れ幕は「祝南三陸町まちづくり事業着工式」と書かれていた。

着工式の終了後には、地域の婦人会の皆さんによる、獲りたての「かき汁」や「若布スープ」で、参加者をもてなした。



凄いぞ南三陸町テコンドー協会



第10回宮城県テコンドー選手権大会が3月17日(日)大河原町総合体育館(はねっこアリーナ)で開催された。

南三陸町テコンドー協会からもキョルギ(組手)とプムセ(形)の部に、5名の選手が出場し、日頃の練習の成果を発揮し大健闘した選手は県下に南三陸町の名声正高め、被災地の子供たちの底力を見せてくれた。結果は下記のとおりです。

- ◆キョルギ(組手)
- ▷女子小学1・2年の部

- 第3位 近藤 恋(伊里前小1年)
- ▷女子小学3・4年の部
- 第3位 阿部若菜(志津川小4年)
- ◆プムセ(形)
- ▷男子小学校高学年中学生の部
- 優勝 阿部裕貴人(歌津中1年)
- 準優勝 佐藤優弥(入谷小5年)

仲間の慰霊に燃香と献花で

3月11日「東日本大震災」の3回忌法要が各所で行われている中で、大津波から2年目を迎え、志津川魚市場の改修も整った漁港の岸壁に、大森地区の老人会8名が震災で亡くなられた皆さんに、海に向かい献花をおこなった。



大森老人会

大森地区の皆さんは大変元気の老人会で、季節の節目に演芸会や食事会などを多くの仲間と、地区センターを会場に活発に活動をしていた。地域の人に声を掛けたり、食事を運んだりして地域の繋がりを大切にしていた。



スポーツ少年団員募集!

今年も町内の各スポーツ少年団の16団体が活動をスタートする。決団式は、4月13日(土)が予定され、オリンピック選手5名が来町する。

志津川剣道スポーツ少年復活

戸倉剣道スポーツ少年団は、戸倉地区の団員の不足から、今年度から「志津川剣道スポーツ少年団」として志津川地区にあった2つの小学生の剣道スポーツ少年団が、旧体どおりの形に戻る事となりました。(連絡先は080-1801-6399千葉まで)

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成24年(2012年) 12月の出来事

◆立命館大職員が卓球教室

卓球の強豪、立命館大学の職員による卓球教室が12月1日、ベイサイドアリーナで開かれた。2回目の開催となったこの日は、地元の小、中、高校生約60人が参加。上達のコツを教えてもらい、熱心に取り組んでいた。

◆震災越え芸能発表会

南三陸町ベイサイドアリーナで12月2日、子供たちの郷土芸能発表会が開かれた。町内6団体に所属する幼稚園児から中学生までが出演。多くの保護者らが見守る中、よさこいや、地域に古くから伝わる踊り、打ちばやしなどを元気に披露した。

◆南三陸町の公式ブログがスタート

南三陸町は、公式ブログ「南三陸なう～南三陸のいま、を伝える・記録する～」を立ち上げた。町の広報やホームページとは違った視点で町内の話題や復興の様子を写真と文章で発信していく。

◆女性たちがリース作り

南三陸町の歌津コミュニティー図書館「魚竜」で12月6日、町内の女性たちがリース作りを楽しんだ。作業はドーナツ型をしたスポンジ状の断熱材に、箸を使って4等四方の布を押し込んでいくもので、さまざまな色の布をちりばめたり、一色に統一したりと思いの作品に仕上げている。

◆アサヒグループから寄付金

大手飲料メーカーのアサヒグループホールディングスは12月6日、南三陸町に寄付金300万円を贈った。今後、さんさん商店街隣に建設される体験学習の拠点施設「ポータルセンター」の備品などに充てられる。

◆南三陸町で移動動物園

南三陸町立志津川小学校の敷地内にある「みんなの児童館」に12月8日、移動動物園が開設された。児童館前には柵が設置され、子供たちはその中に放されたウサギやモルモットなどを抱っこしたり、ポニーの乗馬体験も楽しんだ。

◆三陸道 早期開通を要望

気仙沼市や南三陸町などが、東北地方整備局と仙台河川国道事務所、三陸道の早期開通を要望した。両市町の首長、議長など約30人がシンボルの黄色いネッカチーフを付けて参加。要望書には、「命の道」の役割も持つ三陸道に対する地域住民の期待の声を添付した。

◆「げんきまる」売り上げ金寄贈

加美町の農業者が12月10日、米の新品種「げんきまる」の売り上げの一部を寄付金として南三陸町社会福祉協議会に贈った。町社協では、仮設住宅の街路灯整備に充てることにしている。

◆手薄の排水路など搜索

南三陸町と南三陸署による行方不明者の搜索が12月21日、志津川汐見町地内で行われた。この日は町危機管理課、総務課の職員6人、署員6人をはじめ、ボランティアも参加しがれきを撤去しながら丹念に探した。

◆復興へ走り出す

JR気仙沼線の柳津-気仙沼間で、12月22日からBRTの本格運行が始まった。上下線は13本増便され、日中は約30分に1本のペースとなる。南三陸さんさん商店街前に移設された志津川駅では鉄道切符の販売も開始された。

◆志津川湾おすばで福興市

南三陸町で12月29日、「志津川湾おすばで福興市」が開かれた。年末恒例のイベント「おすばで祭り」と、毎月開かれている福興市との合同開催で、町内外の約30店舗が魚介類をはじめ、農産物、菓子などを販売した。

◆ウジェスーパー 店舗再会足止め

震災前から南三陸町に店舗を構えていたウジェスーパーが、志津川地区で再開を計画している。

従来より規模を拡大し、100円ショップやドラッグストアなどの複合施設として新たなスタートを切りたい考えだが、23年10月に町側に計画を説明して以来、進展していない。

高台移転が予定されている地区を結ぶ連絡道がウジェの計画する場所の一部と重なっていることや、各道路などのかさ上げ高が未定などといった課題があり、遠藤副町長は「現段階では検討課題がある。調整が必要だ」と話している。



◆町民約2500人の署名集まる

ウジェスーパーの出店計画を巡り、町民グループの代表者が早期出店を望む嘆願書と、町民ら約2500人の署名を同社幹部に提出した。署名は1～2月の間に集められ、「歩いて行ける距離に割安な生活用品を買える場所を作ってほしい」と訴えた。

◆公立志津川病院 基本構想・計画固まる

被災した公立志津川病院の再建について議論してきた南三陸町病院建設基本計画策定委員会が、12月26日夜に開かれた会議で終了し、新病院の基本構想・基本計画を固めた。

新病院は沼田地内に建設され、免震構造3階建て、延べ床面積7200平方メートルを予定。駐車場は約200台分とし、バスロータリーも設ける。診療科は従来通りの9科が維持され、一般病床40床、療養病床は50床となる。年度内に業者を選定するスケジュールを示し、27年4月の開院を目指している。

3月定例議会

9議員が質問

山内 孝樹 氏

①林業を取り巻く環境は厳しい。振興策を示せ
②木質バイオマスエネルギー実証調査の今後の展開は。

町長 ①個人所有の小規模森林施業を推進するため、24年度に森林施業計画から森林経営計画に移行された。森林経営計画は複数の所有者の同意があれば共同で申請が可能。税制面の一定の優遇措置、補助金交付などが受けられるので、森林組合などと連携して啓発、普及を図る。

新築住宅に町産材を5割以上使用する建て主に一定の補助金を交付しているほか、災害公営住宅の一戸建て住宅には極力、町産材を使用するよう要請している。

②一定の評価はいただいたが、これからどう

するかだ。民設民営かどうかは検討課題。初期投資が大きい。

星 喜美男 氏

①公立志津川病院の適正かつ効率的な経営が必要だが、町長の考えは

②緊急雇用創出基金事業は、正規の仕事に就くまでのつなぎだ。民間事務所への移行をどうする。

町長 ①病院建設基本計画では「町から病院を無くしてはならない」「身の丈に合った経営を行う」の2点を重要視した。今後も地域医療の確保と健全経営のバランスを図り、継続的に医療サービスが提供できるよう努める。病院が抱える問題、現状を積極的に発信し、町民一人一人が病院を支えていく機運醸成を図っていく。

②企業の復興に合わせて緊急雇用事業の段階的な縮小を視野に入れながら労働者のスムーズな移行ができるよう支援していく。

千葉 伸孝 氏

①志津川地区にスーパーマーケットの出店計画があるが、町はどう考えているか。

町長 ①出店を拒む何ものもない。土地の問題はあるが、町民の利便性が高まると考える。本音を言えば、スーパーに限らず将来的に商業ゾーンで営業してもらいたいと思っているので、今は仮設だとうれしい。

遠藤副町長 ①既存の商業施設であり、住民の利便性を考えると施設はあって良いと考える。ただ、町が土地利用計画を決めている。当該事業所の計画では、町の計画を変えなくてはならない。

町の計画との整合性について真摯(しんし)に検討した。当該事業所の考えだけで町の復興計画の根幹をなすものを変えるわけにはいかないと伝えた。

次号に続きます。